

## 第2章 飯塚市の人口の将来展望

### 1. 将来展望に必要な調査・分析

#### (1) 調査概要

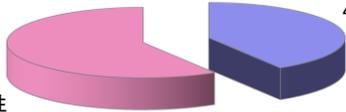
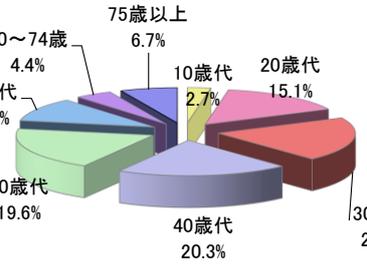
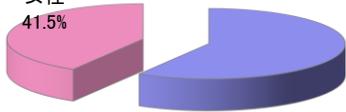
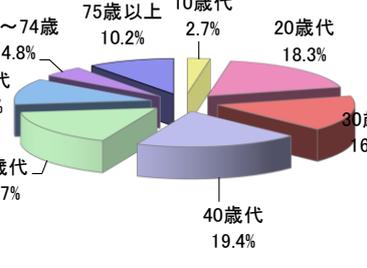
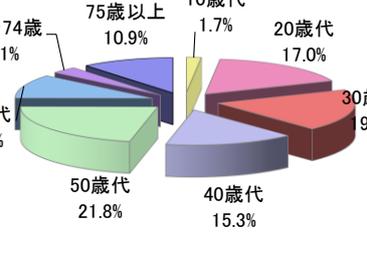
将来展望に必要な調査として、以下の調査を実施しました。

表9 調査概要（その1）

調査名	調査対象	主な調査内容
市民アンケート	18歳以上の市内居住者 6,000人 ・回答数：2,232 ・回収率：37.2%	・飯塚市の印象について ・日常の行動範囲について ・飯塚市のまちづくりについて ・飯塚市の将来について
うち、「結婚、出産、子育てに関するアンケート」	市民アンケート調査の対象者のうち18歳～39歳の方 2,880人 ・回答数：835 ・回収率：29.0%	・結婚観について ・出産や子育てについて
高校生アンケート	市内にある公立・私立高校 4校 328人 ・回答数：328 ・回収率：100%	・飯塚市の印象について ・今後の進路等について ・今後の居住等について
大学生アンケート	市内にある大学 3大学 300人 ・回答数：238 ・回収率：79.3%	・飯塚市の印象について ・今後の就職等について ・今後の居住等について
転出者アンケート	2014（平成26）年に市外へ転出（転出届を提出）した方 600人 ・回答数：187 ・回収率 31.2%	・転出時のことについて ・飯塚市の印象について
転入者アンケート	2014（平成26）年に市内へ転入（転入届を提出）した方 600人 ・回答数：234 ・回収率：39.0%	・転入時のことについて ・飯塚市の印象について

※アンケート調査の実施時期はいずれも2015（平成27）年7月

表 10 調査概要（その2）

調査名	回答者の性別	回答者の年齢
市民アンケート （「結婚、出産、子育てに関するアンケート」を含む）	(n=2196) 	(n=2195) 
高校生アンケート	(n=328) 	(未調査)
大学生アンケート	(n=328) 	(未調査)
転出者アンケート	(n=185) 	(n=186) 
転入者アンケート	(n=229) 	(n=229) 

※グラフ中の「n」は各回答数の中の、有効回答数を示す。

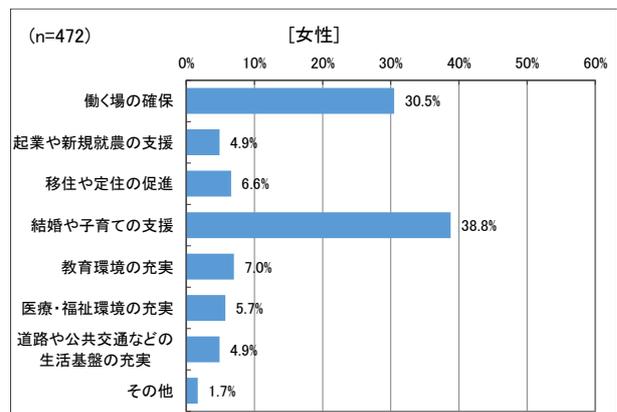
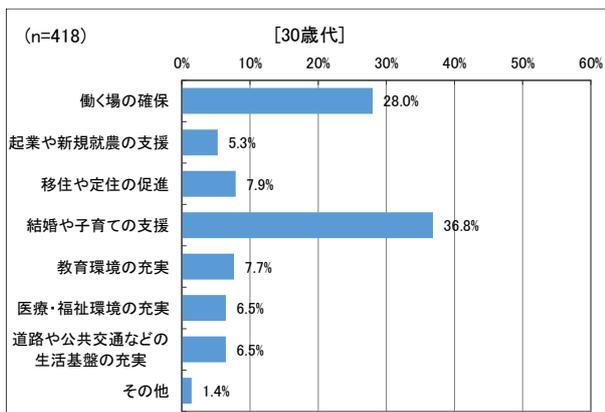
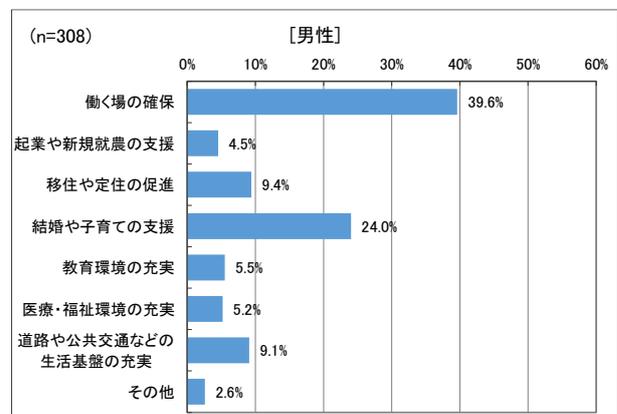
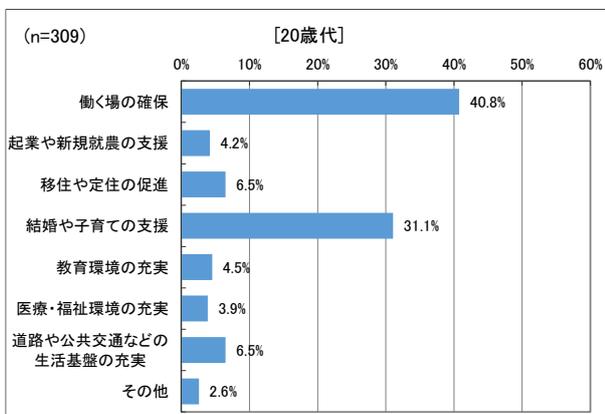
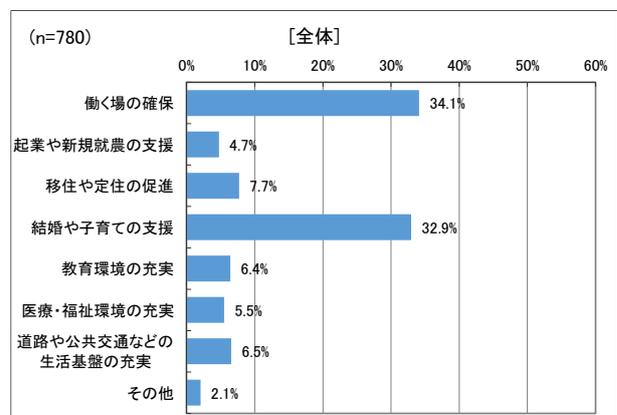
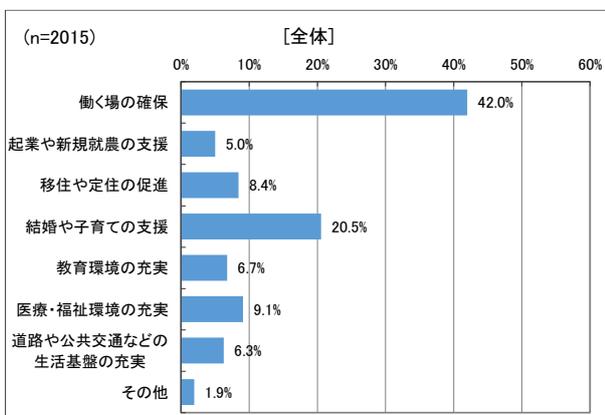
## (2) 人口減少対策として望まれている取り組み

- ・「働く場の確保」が42.0%で最も高い。ついで「結婚や子育ての支援」が高い。
- ・年齢別にみると、特に20歳代、30歳代で「結婚や子育ての支援」が高く、30代では「働く場の確保」を上回り、最も高い。
- ・結婚、出産、子育てに関するアンケート対象者（市民アンケート対象者のうち、18～39歳の方）をみると、全体では「働く場の確保」が34.1%で最も高い。女性では「結婚や子育ての支援」が最も高い。

図 51 人口減少に対して飯塚市が力を入れるべき対策（単一回答）

【市民アンケート】

【うち、結婚、出産、子育てに関するアンケート対象者】



※結婚、出産、子育てに関するアンケートの対象者は、市民アンケート対象者のうち、18～39歳の方。

### (3) 住民の結婚・出産・子育てに関する意識や希望の調査

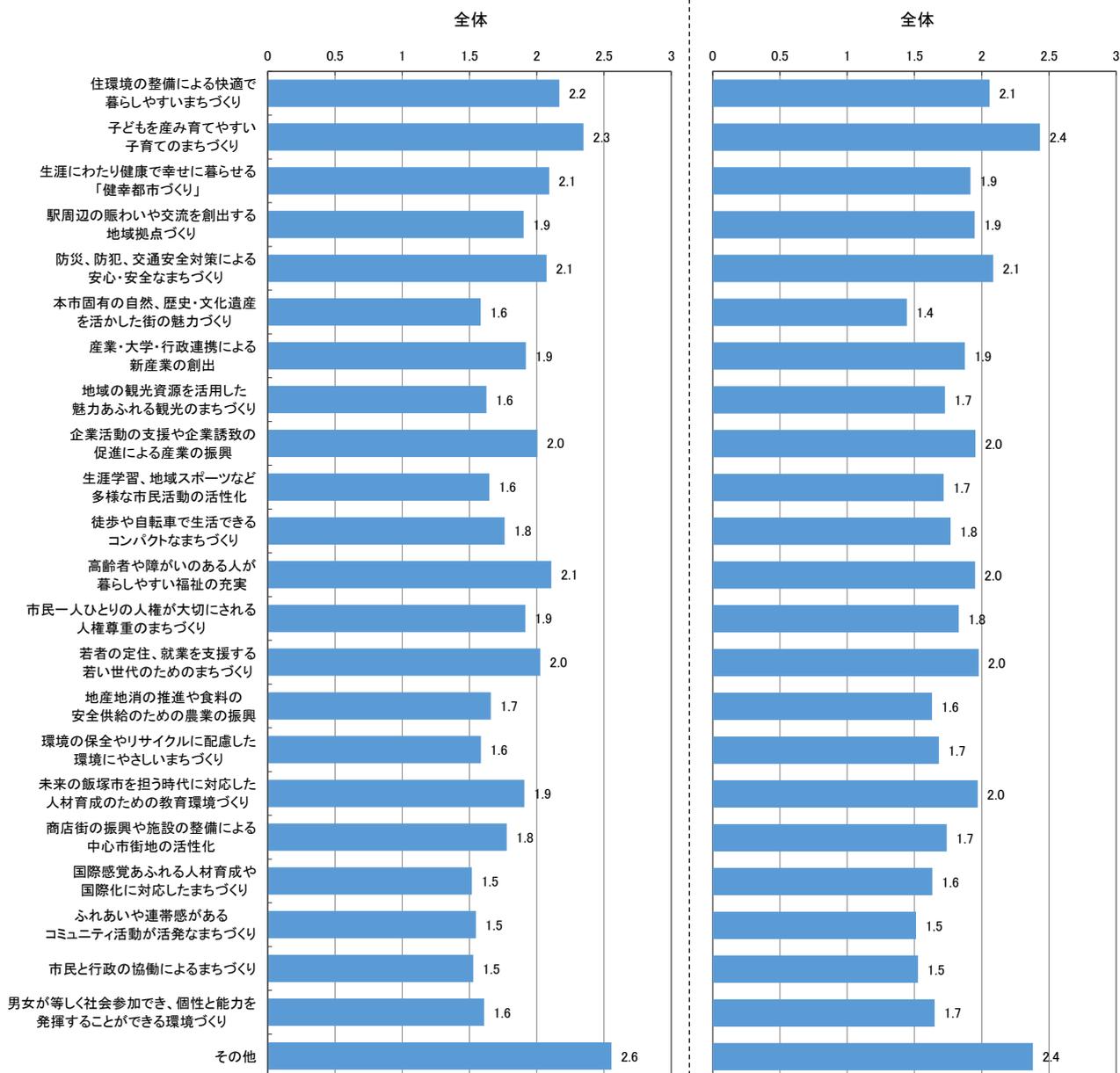
#### ①取り組みの重要度

・住民の結婚・出産・子育てに関する意識や希望として、飯塚市の取り組みの今後への期待「重要度」をみると、「子どもを産み育てやすい子育てのまちづくり」が最も高い。(その他を除く)

図 52 取り組みの重要度

【市民アンケート】

【うち、結婚、出産、子育てに関するアンケート対象者】



※結婚、出産、子育てに関するアンケートの対象者は、市民アンケート対象者のうち、18～39歳の方。

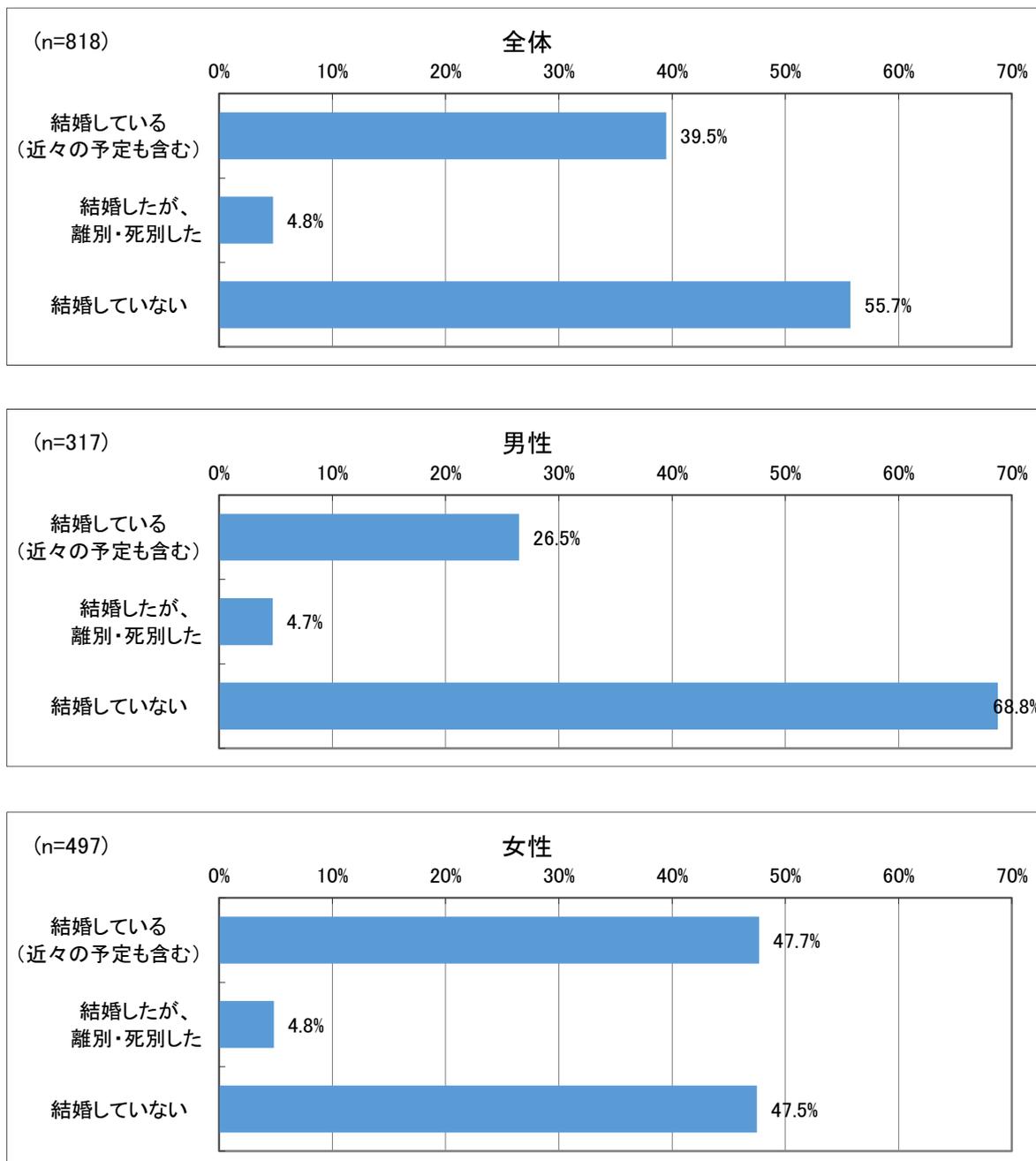
※上記グラフの数値は、項目ごとに、その重要度を、高い：5、やや高い：4、ふつう：3、やや低い：2、低い：1の5段階で評価していただいた結果を平均化した数値である。

## ②結婚等について

・結婚していない人が全体で55.7%を占める。特に男性は68.8%が結婚していない。女性で結婚していない人は47.5%となっている。

図 53 結婚の状況（単一回答）

【結婚、出産、子育てに関するアンケート】



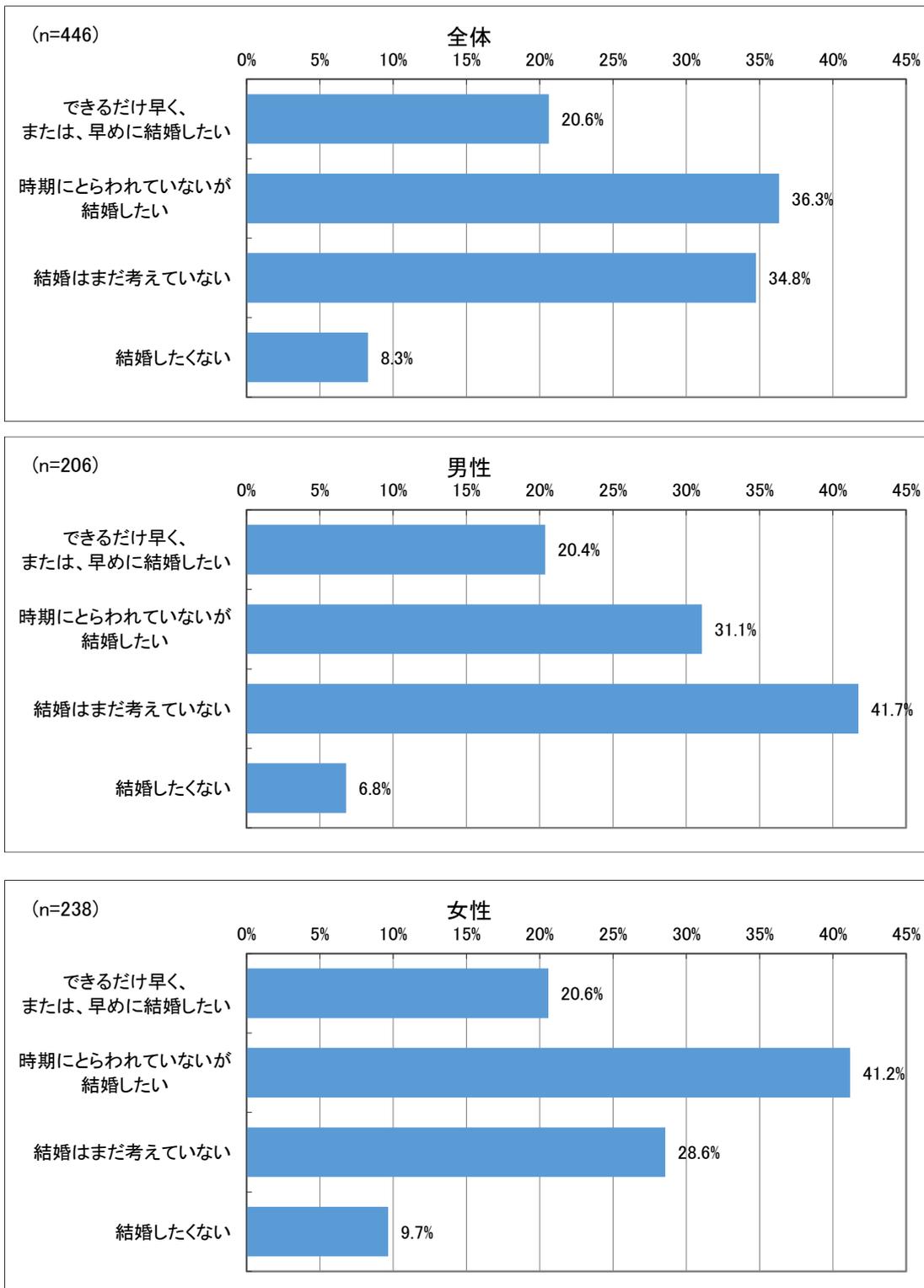
※結婚、出産、子育てに関するアンケートの対象者は、市民アンケート対象者のうち、18～39歳の方。

### ③結婚に対する考え

- ・全体では、「時期にとらわれていないが結婚したい」が36.3%で最も高く、「できるだけ早く、または、早めに結婚したい」(20.6%)を合すると、既に「結婚したい」と考えている人は56.9%となっている。一方で、「結婚はまだ考えていない」が34.8%となっている。
- ・性別で見ると、女性に比べて男性の方が「結婚はまだ考えていない」割合が高い。

図 54 結婚に対する考え（単一回答）

【結婚、出産、子育てに関するアンケート】



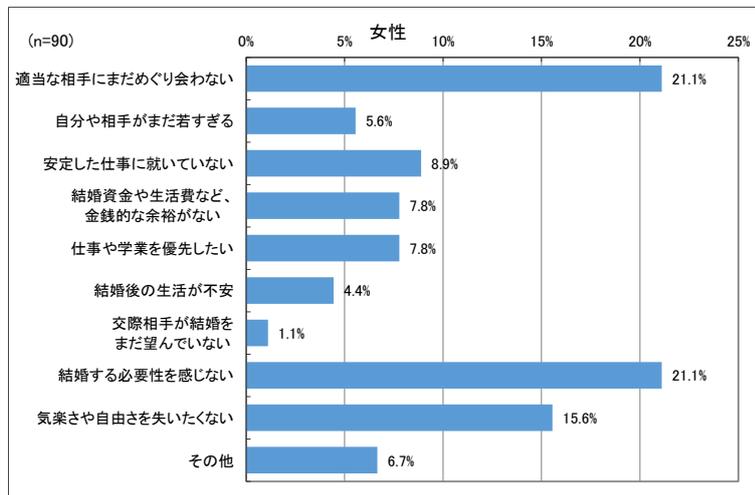
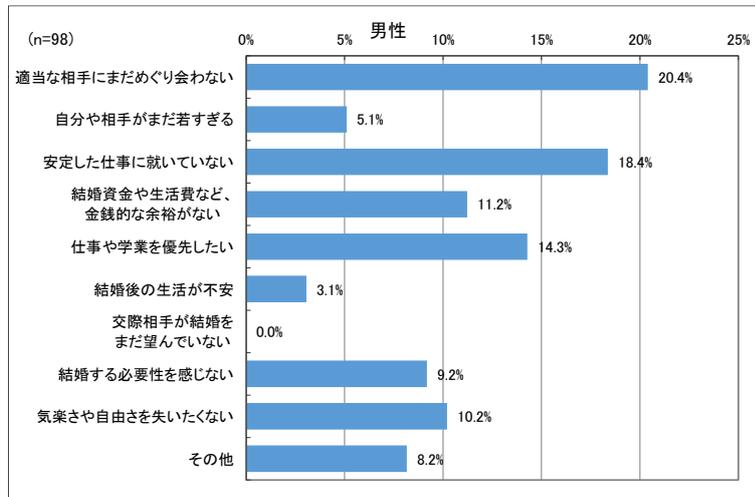
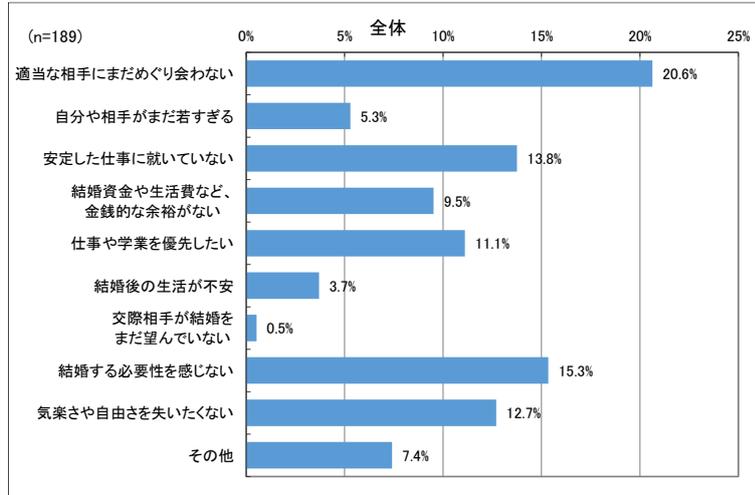
※結婚、出産、子育てに関するアンケートの対象者は、市民アンケート対象者のうち、18～39歳の方。

## ④結婚しない理由

- ・全体では「適当な相手にまだめぐり会わない」が20.6%で最も高い。
- ・男性では「適当な相手にまだめぐり会わない」が最も高く、ついで「安定した仕事に就いていない」、「仕事や学業を優先したい」の順となっている。
- ・女性では、「適当な相手にまだめぐり会わない」と「結婚する必要性を感じない」が最も高く、ついで「気楽さや自由さを失いたくない」となっている。

図 55 結婚しない理由（単一回答）

【結婚、出産、子育てに関するアンケート】



※結婚、出産、子育てに関するアンケートの対象者は、市民アンケート対象者のうち、18～39歳の方。

## ⑤子どもについて

- ・「ほしいと思っている」が60.9%となっている。
- ・理想とする子どもの人数は「2人」が49.5%、「3人」が38.2%であるのに対し、最終的に予定している子どもの人数は「2人」が56.5%、「3人」が25.1%となっている。

図 56 子どもの希望（単一回答）  
【結婚、出産、子育てに関するアンケート】

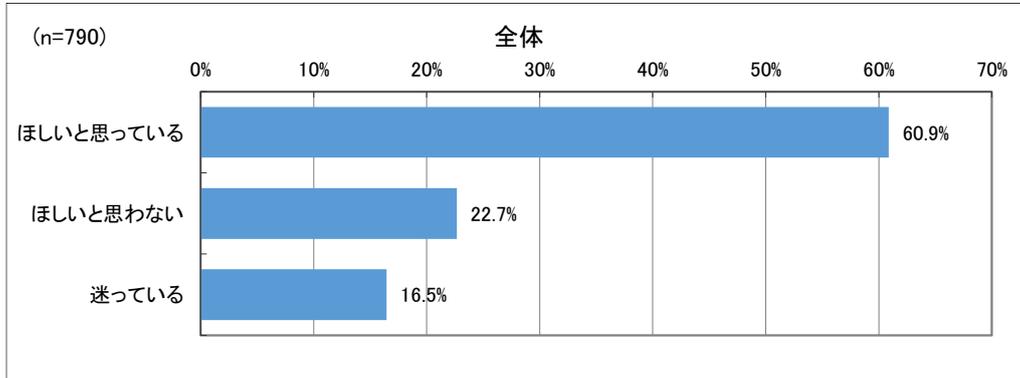


図 57 理想とする子どもの人数（単一回答）  
【結婚、出産、子育てに関するアンケート】

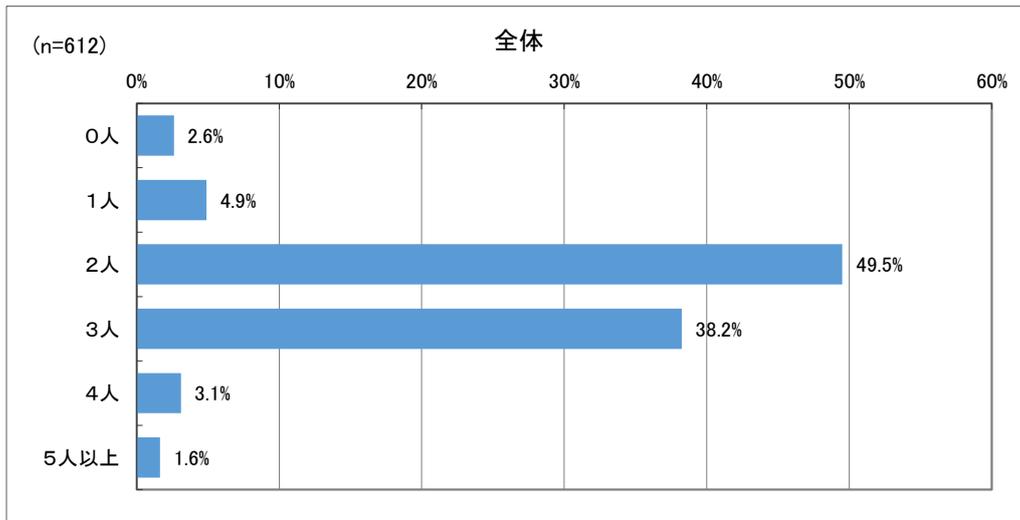
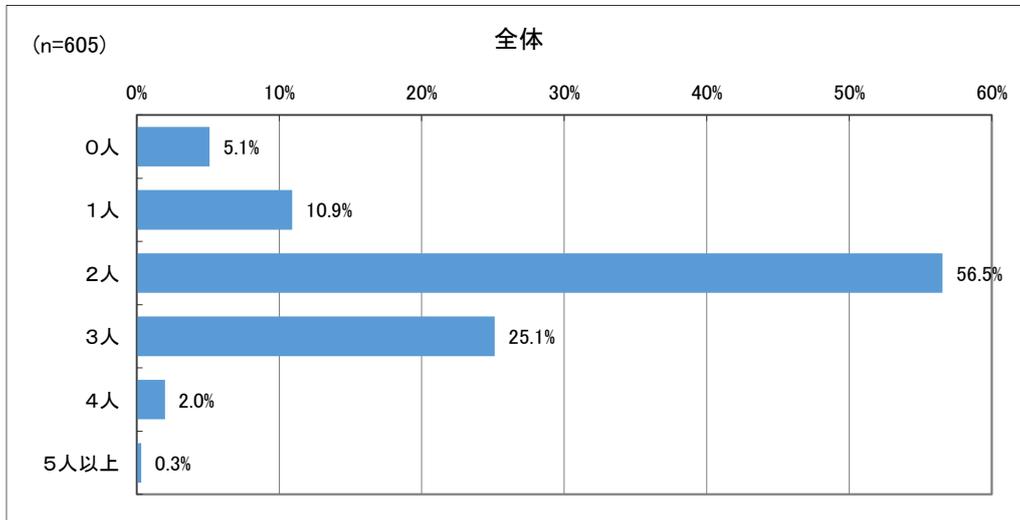


図 58 最終的に予定している子どもの人数（単一回答）  
【結婚、出産、子育てに関するアンケート】

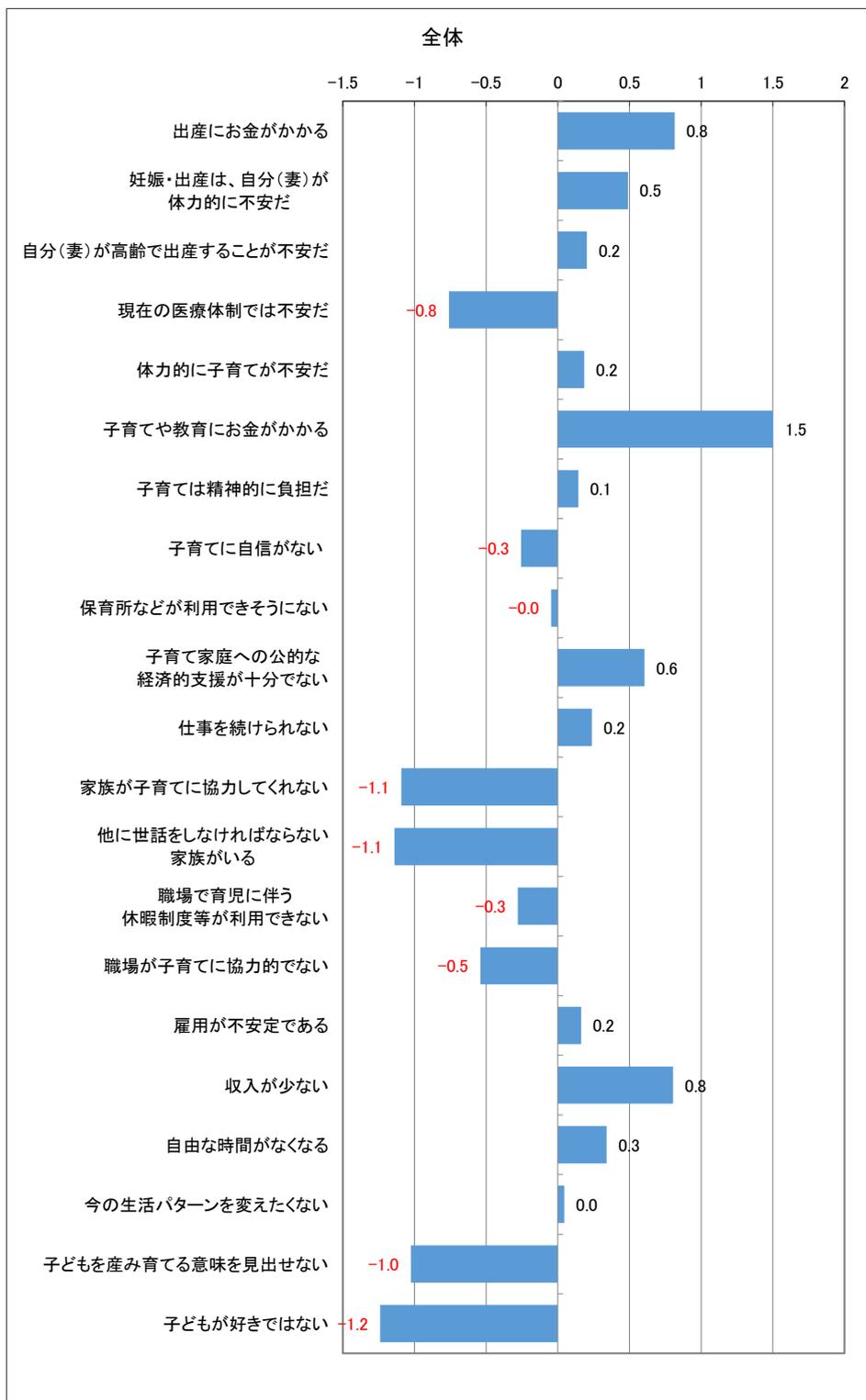


※結婚、出産、子育てに関するアンケートの対象者は、市民アンケート対象者のうち、18～39歳の方。

## ⑥子どもをつくることに迷っている・ほしいと思わない理由

・「子育てや教育にお金がかかる」が最も高く、ついで「出産にお金がかかる」「収入が少ない」の順となっている。

図 59 子どもをつくることに迷っている・欲しいと思わない理由  
【結婚、出産、子育てに関するアンケート】



※結婚、出産、子育てに関するアンケートの対象者は、市民アンケート対象者のうち、18～39歳の方。  
※グラフの数値は、そう思う、どちらかといえばそう思う、どちらかといえばそう思わない、そう思わないの4段階で評価していただいた結果をポイント換算（そう思う：2、どちらかといえばそう思う：1、どちらかといえばそう思わない：-1、そう思わない：-2）し平均化した数値である。

## (4) 地方移住の希望に関する調査

### ① 転出者に対するアンケート調査

- ・ 転出先は「福岡県内（福岡市、嘉麻市以外）」が38.3%で最も多く、ついで「福岡市」「九州各県（福岡県以外）」の順となっている。
- ・ 転出理由は「仕事の都合」が38.4%で最も多く、ついで「親族と同居または近くに住むため」、「結婚のため」の順となっている。（その他を除く）
- ・ 飯塚市への居住意向については「住みたいと思う」が50.0%で最も多い。

図 60 転出先（単一回答）

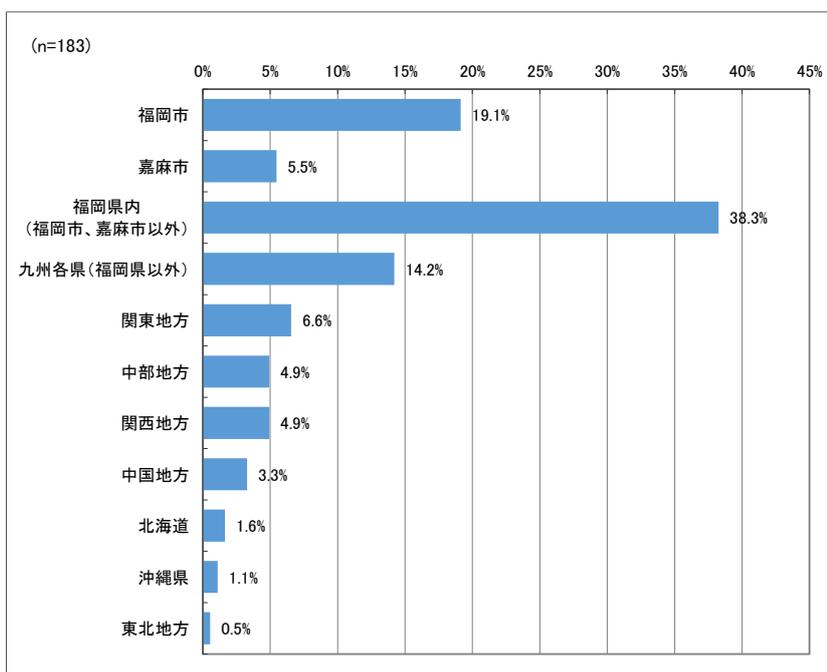


図 61 転出理由（単一回答）

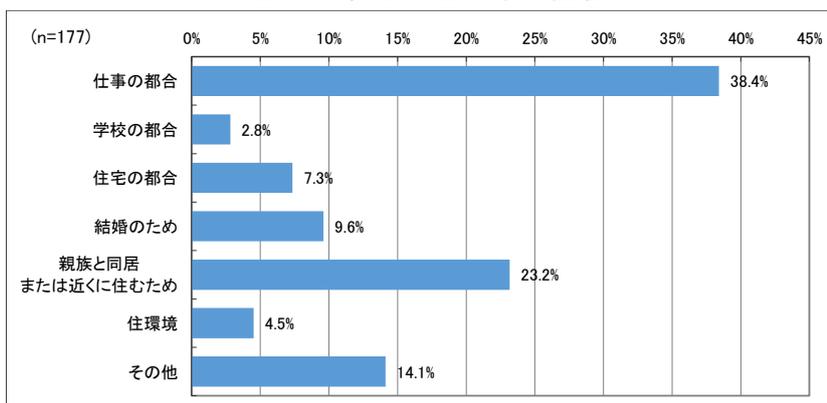
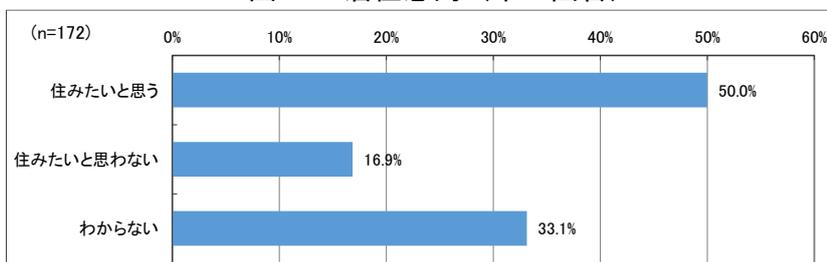


図 62 居住意向（単一回答）



## ②転入者に対するアンケート調査

- ・転入前の居住地は「福岡県（福岡市・嘉麻市・田川市・田川郡以外）」が 29.6%で最も高く、ついで「九州各県（福岡県以外）」、「福岡市」・「嘉麻市」の順となっている。
- ・転入理由は、「仕事の都合」が 37.2%で最も高く、ついで「親族と同居または近くに住むため」、「住宅の都合」の順となっている。（その他を除く）

図 63 転入前の居住地（単一回答）

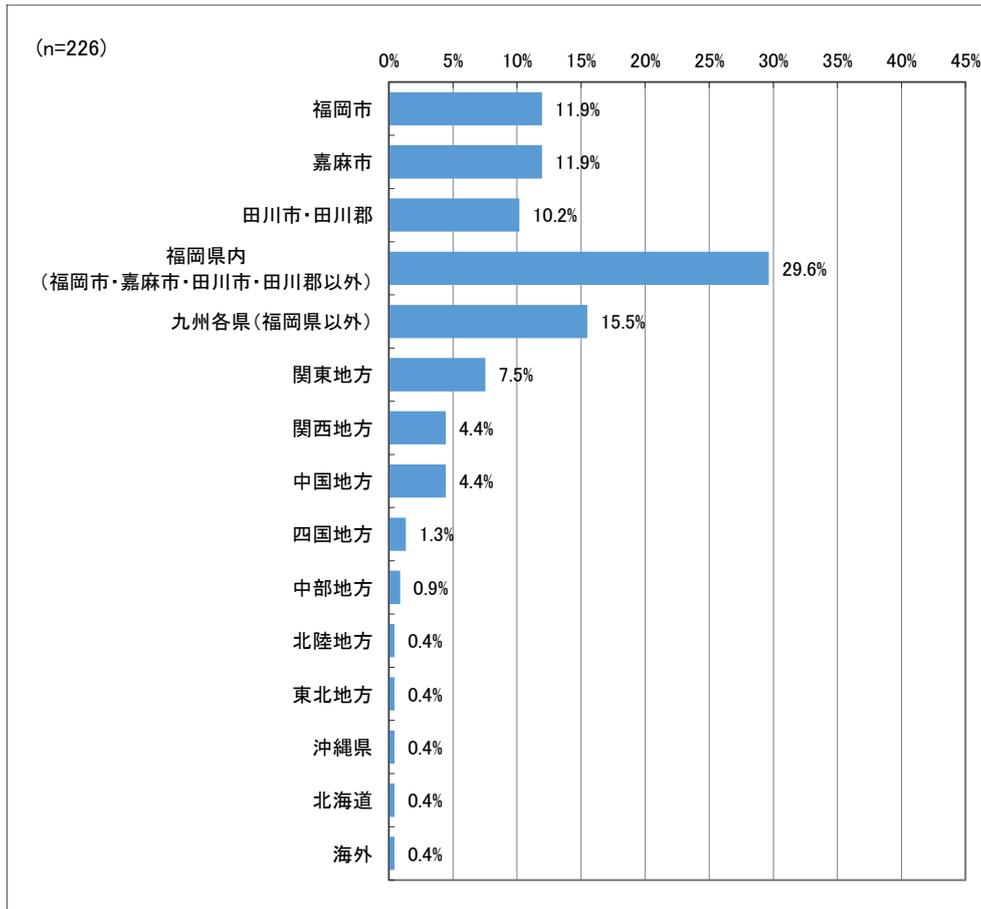
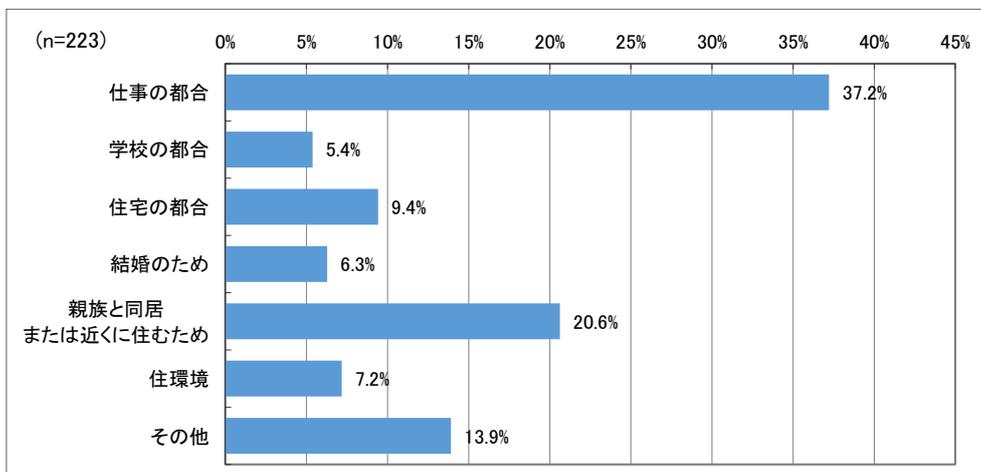


図 64 転入理由（単一回答）



## (5) 高校、専門学校、大学等卒業後の地元就職率の動向や進路希望の調査

### ①高校生アンケート調査

- ・進路は、「進学」が93.2%を占める。
- ・就職地・進学地は、「県内他市町村」が41.9%と最も高い。「飯塚市」は29.4%となっている。
- ・就職地・進学地を性別でみると、男性は女性に比べて「県外」が高く、女性は男性に比べて「県内他市町村」が高い。

図 65 進路（単一回答）

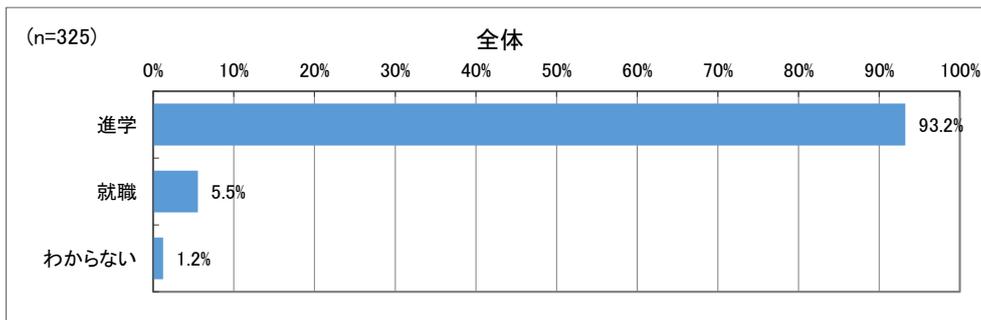
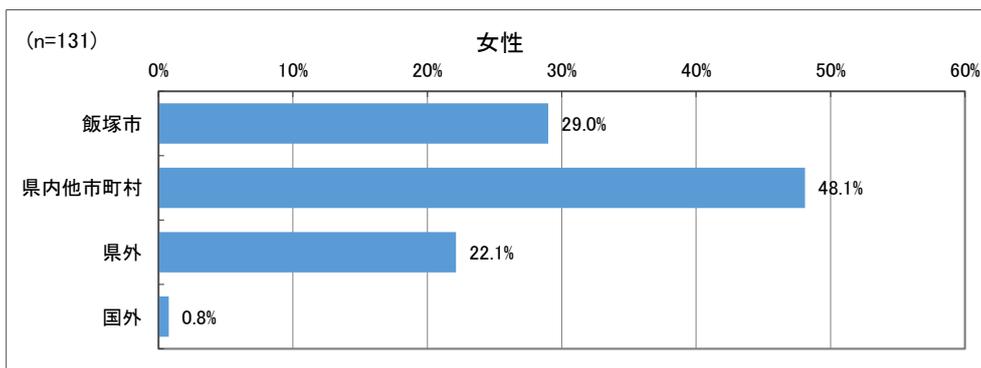
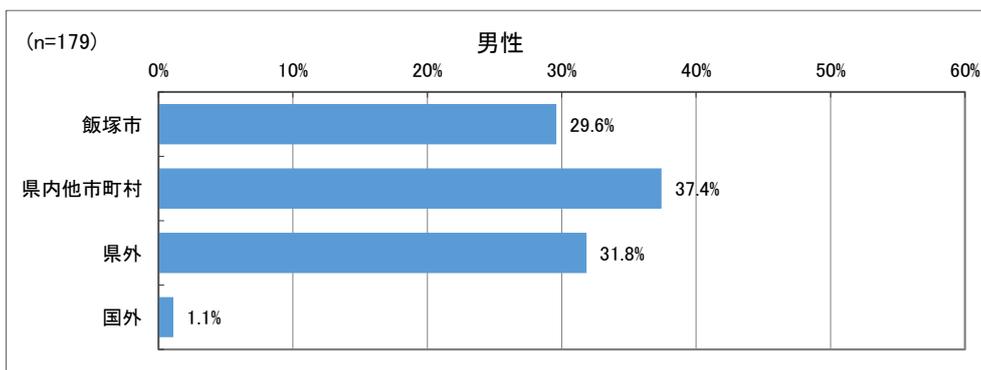
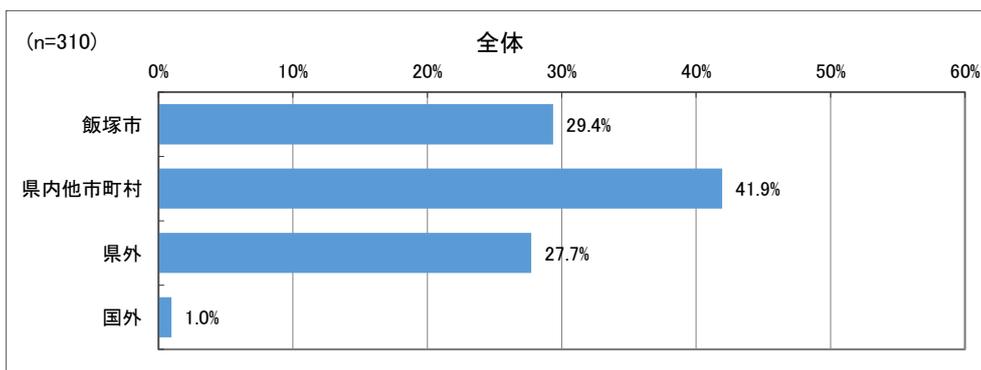
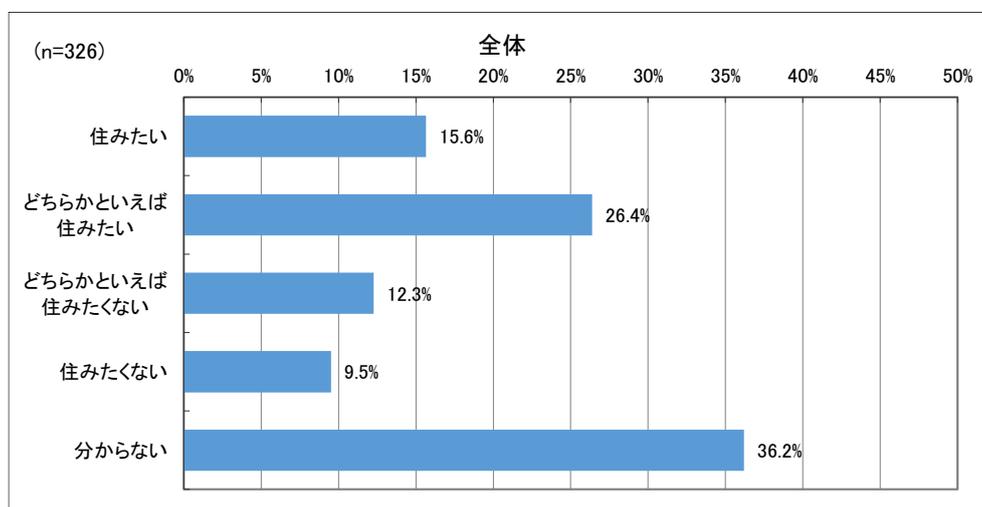


図 66 就職地・進学地（単一回答）



- ・飯塚市への居住意向は、「分からない」が36.2%で最も高い。
- ・「住みたい（「住みたい」「どちらかといえば住みたい」の合計）」は42.0%、「住みたくない（「どちらかといえば住みたくない」と「住みたくない」の合計）」は21.8%となっている。

図 67 飯塚市への居住意向（単一回答）



## ②大学生アンケート

- ・希望の就職地は「県内他市町村」が43.6%、「県外」が43.1%、「飯塚市」は12.0%となっている。
- ・希望の就職地を性別で見ると、男性は「県外」が最も高く、女性は「県内他市町村」が最も高い。
- ・飯塚市への居住意向は「住みたくない」が43.7%で最も高く、「どちらかといえば住みたくない」を合わせると7割を超える。「住みたい」「どちらかといえば住みたい」は合わせて11.3%となっている。

図 68 希望の就職地（単一回答）

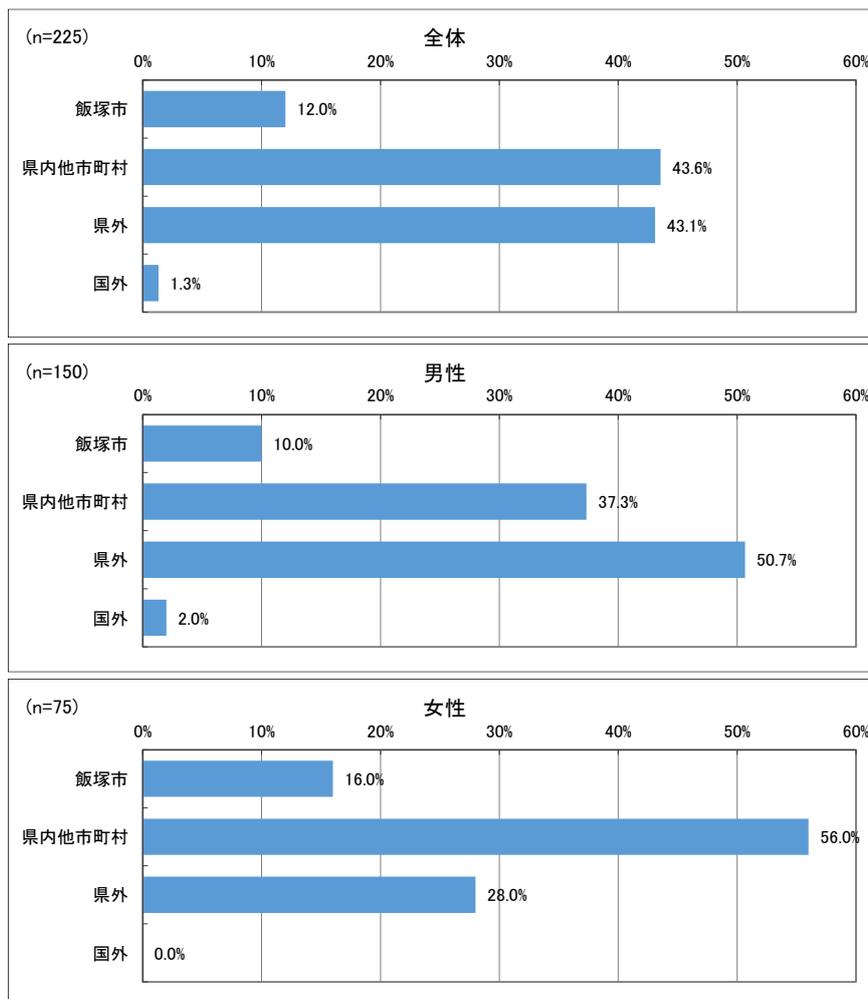
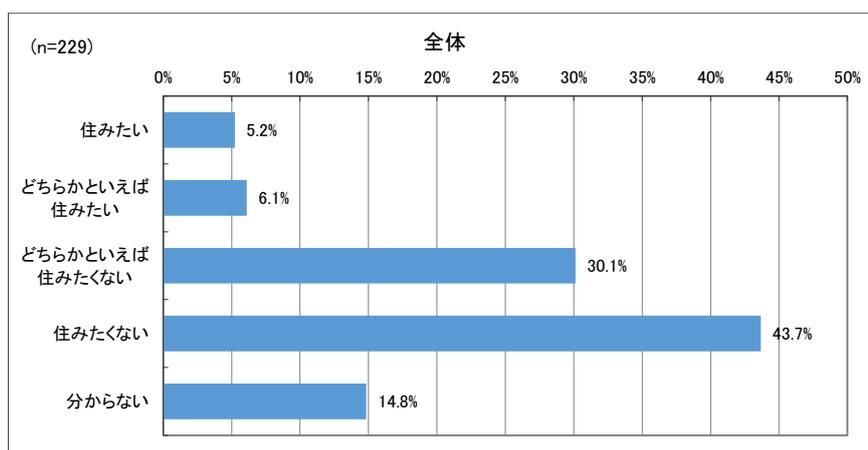


図 69 飯塚市への居住意向（単一回答）



## (6) 飯塚市まち・ひと・しごと創生総合戦略ワークショップ

「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定に際し、市民の皆さんの率直なご意見をいただき、計画策定の参考するためのワークショップを開催しました。

表 11 開催概要

第1回	テーマ	しごと・にぎわい・若者
	日時	8月5日(水) 19:00-21:00
	場所	イツカコミュニティセンター4F 学習室 401
	参加者数	22名
第2回	テーマ	結婚・子育て
	日時	8月22日(土) 10:00-12:00
	場所	イツカコミュニティセンター4F 学習室 401
	参加者数	19名

ワークショップは、カフェのようなくつろいだ雰囲気の中で、少人数に分かれたテーブルで「自由な対話」を行い、他のテーブルのメンバーとシャッフルして対話を続けながら、参加者全員の意見や知識を集めていく「ワールドカフェ」形式で実施しました。

図 70 ワークショップの様子

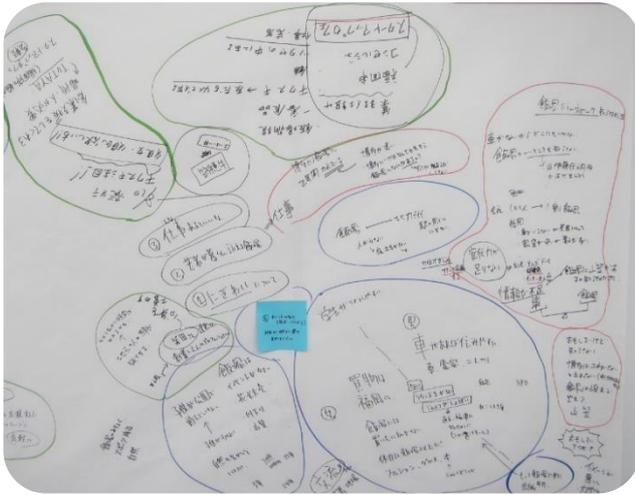


以下に、主なご意見及び開催結果を整理します。

- ・しごと・にぎわい・若者に関しては、「魅力をアピールすべき」「起業に関する情報提供が必要」「子どもと高齢者が交流できるスペース」「在日外国人に文化を教えるビジネス」「学生が多い利点を活かした世代間交流」「都市的な魅力が少ない」「若者が地元に残れるよう企業が積極的に新規事業すべき」といった指摘があった。
- ・結婚・子育てに関しては、「子育ての楽しさをもっと伝えていくべき」「女性が飯塚の中心であることに自信を持つ」「子育てするなら飯塚市と言い切れる政策が必要」「住みやすい環境づくりと広報の強化」といった指摘があった。

## ■開催結果

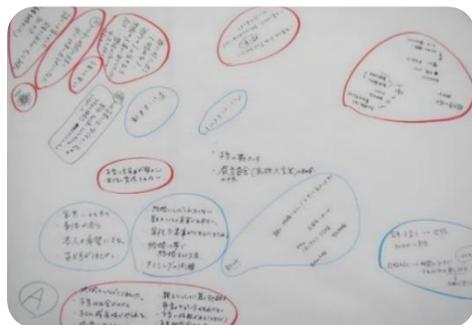
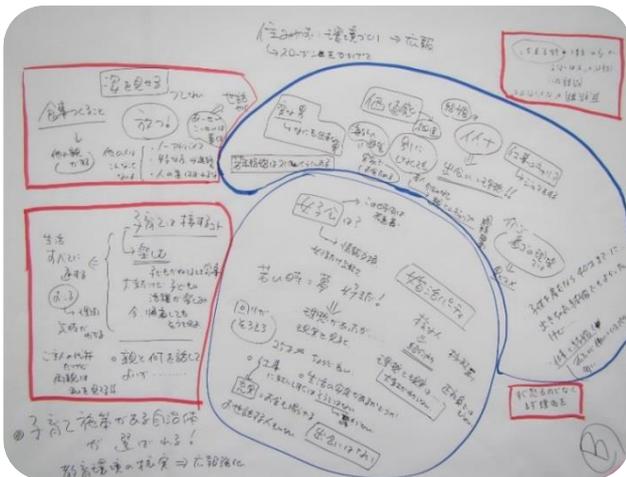
# 第1回テーマ “しごと・にぎわい・若者”



### (主な意見)

- 働きに来ている若者が市内に住みたいと思っていない。市の良いところが伝わっていない。もっと魅力をアピールすべき！
- 起業したい！お店を持ちたい！と思っている若者が、簡単に情報を取得できる場所“スタートアップカフェ”があると嬉しい。
- 子どもと高齢者が交流できるスペースや在日外国人に文化を教えるビジネスなど高齢者が活躍できる場があれば、それが新たなビジネスに繋がるのではないかと。
- 市外の人々が馴染みにくい地区性があるのかもしれない、学生が多い利点を活かし、世代間で交流することで違った魅力が発見できるのではないかと。
- 地元の良さや充実したスポーツ施設など魅力を若者や市外にもっと発信することが重要！
- 市内居住者と観光などの来訪者を区別して考えることも必要。
- 都市的な魅力が少なく、若者に物足りない。
- 保守的な地元企業が多い。若者が地元に残れるよう積極的に新規事業が必要。

# 第2回テーマ “結婚・子育て”



### (主な意見)

- 日頃、同世代の女性と話す機会が多いが、学生から子育てが終わった世代の男性など幅広い方の意見が聞けて楽しかった。
- 多くの女性が、結婚して子どもを産みたいと強く望んでいるということが分かった。
- 学生なので、結婚や子育てはまだまだ先のことだと思っていたが、様々な意見を聞いて考えさせられた。
- 子育ては大変そう！という意見があったが、楽しさを子育て真っ最中の私達ももっと伝えていく必要があると感じた。
- 参加された女性達はエネルギーで素晴らしい。女性が飯塚の中心であることに自信を持って頑張ってもらいたい。
- 子育て政策がある自治体は選ばれる。「子育てするなら飯塚市」と言い切れる政策が必要。
- 住みやすい環境づくりとそれに対する広報を強化していくことが重要！

## (7) 調査結果の分析

(2)～(6)までの調査結果を踏まえ、人口減少対策に関する分析を以下に整理します。

### ①人口減少対策全般：

#### 「働く場の確保」と「結婚や子育て支援」の取り組みが求められる

- ・人口減少対策として、「働く場の確保」や「結婚や子育ての支援」が強く望まれている。特に、子育て世代においては「結婚や子育ての支援」を望む割合が高く、「働く場の確保」と「結婚や子育て支援」の取り組みが求められる。
- ・飯塚市の取り組みの今後への期待「重要度」についても、「子どもを産み育てやすい子育てのまちづくり」が最も高く、「子育て支援」の取り組みが求められる。

### ②結婚・出産・子育てについて：

#### 金銭面の負担軽減と安定した雇用の確保や結婚に対する関心を高めるための取り組みが求められる

- ・子どもについて、本市においても理想とする子どもの人数に対して最終的に予定している子どもの人数が少なく、その背景として「お金の問題」が一因となっていることから、子どもを多く産み育てられる環境づくりが必要で、金銭面の負担軽減と安定した雇用の確保に向けた取り組みが求められる。
- ・併せて、結婚については出会いの場づくりの取り組みや、結婚に対する関心を高めるための取り組みが求められる。

### ③地方移住について：

#### 親族との同居等を支援し、本市への帰郷・定住を促進する取り組みが求められる

- ・転出理由・転入理由として、「仕事の都合」や「親族と同居または近くに住むため」等の割合が高く、「住環境（交通・買物・医療・福祉・子育て環境・コミュニティなど）」の割合は低い。
- ・すなわち、本市の場合、住環境（交通・買物・医療・福祉・子育て環境・コミュニティなど）が一定程度充実していることなどから、住環境が転入転出の最も大きな理由とはなっていないことがうかがえる。また、一旦飯塚市を離れた住民が「親族と同居または近くに住むため」にUターンしていることがうかがえる。
- ・したがって、「仕事の都合」に伴う流出に関しては、転職や新規就業等に伴う過度な転出を防ぐことが求められる。また、「親族と同居または近くに住むため」の流入に関しては、親族との同居等を支援し、本市への帰郷・定住等を促進する取り組みが求められる。さらに、住環境のさらなる魅力向上による本市への定住促進も考えられる。

#### ④若い世代の定住について：

##### まちの魅力向上や大学生のまちに対する愛着の醸成が求められる

- ・本市に「住みたい」割合をみると、高校生アンケート調査では42.0%であるのに対し、大学生アンケートでは11.3%にとどまる。一方で、大学生の「住みたくない」割合は7割を超える。
- ・その背景として、多くの高校生がこれまで本市に住み続け、育ってきたことで、地域に対する愛着が育まれてきたのに対し、大学生は市外出身者が約8割を占めており、地域に対する愛着が希薄であること、また、就職の問題や市外の他地域に対する憧れなどがあるものと考えられる。
- ・人口移動分析でも示したように、本市の人口移動は、市内への大学進学に伴い転入超過になることが最大の強みであり、大学生に「飯塚市に住みたい」と思ってもらえるようなまちの魅力向上や、まちに対する愛着の醸成が求められる。